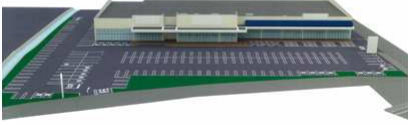
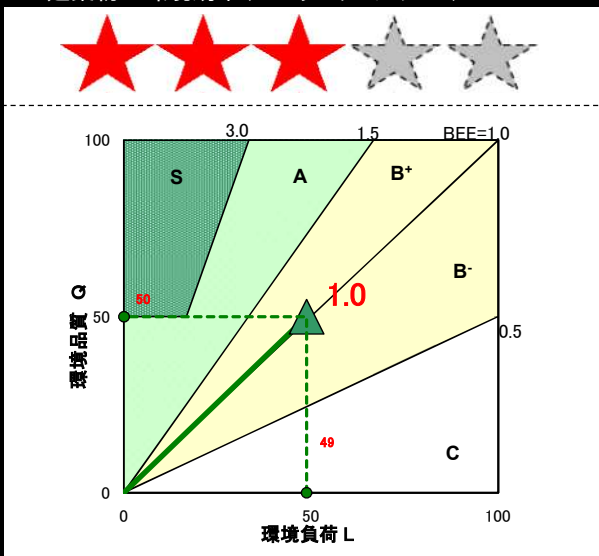


CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要			■ 外観	
建物名称	(仮称)コブ春日店	階数	地上1階	
建設地	熊本県熊本市西区春日7-1-1	構造	S造	
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	100 人	
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	4,015 時間/年	
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2015年3月 予定	評価の実施日	2014年10月15日	
敷地面積	8,675 m ²	作成者	加藤 彰	
建築面積	3,493 m ²	確認日	2014年10月19日	
延床面積	3,395 m ²	確認者	田井 啓文	

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



BEE = 1.0

$$\text{BEE(環境効率)} = \frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



排出率

93%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

77

評価点

■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

85.2

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

67.5

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

67.5

【重点事項4】 循環型社会の実現

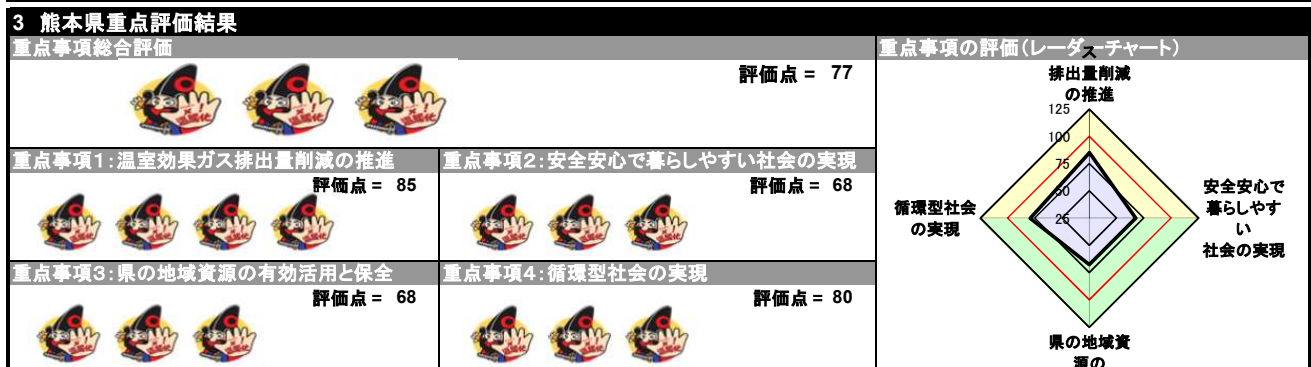
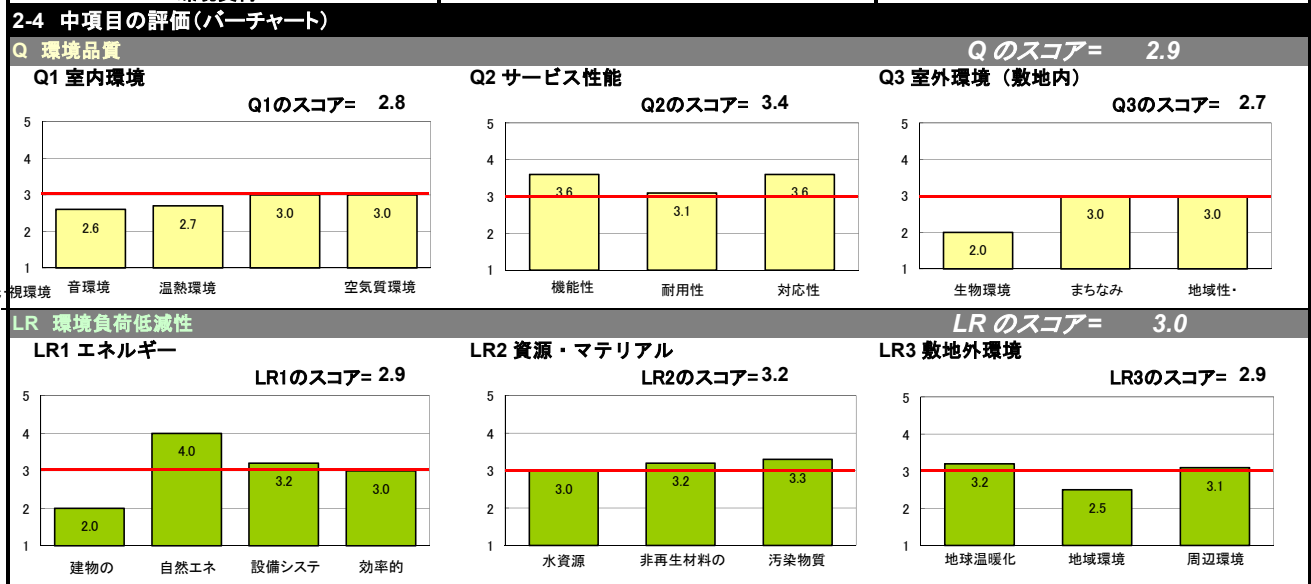
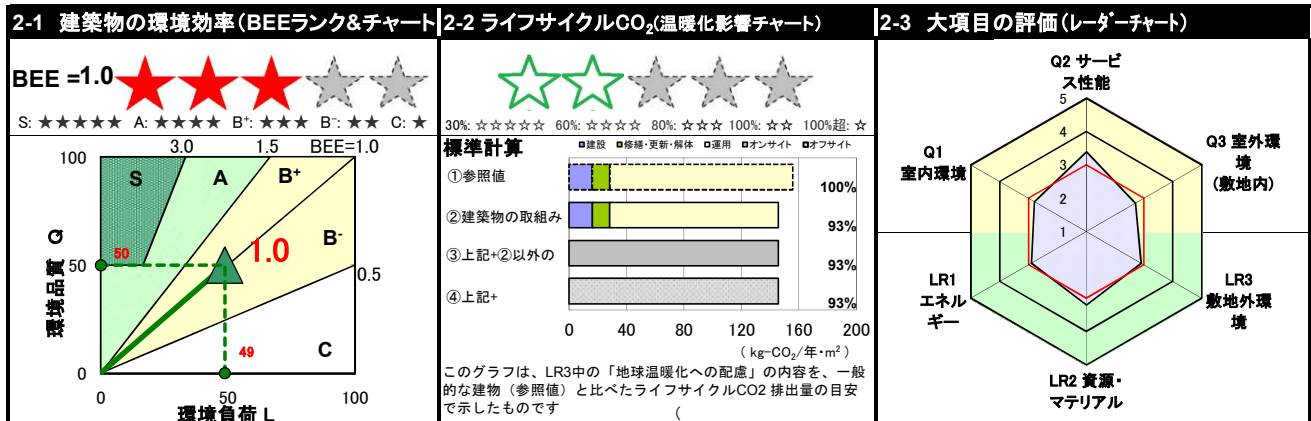
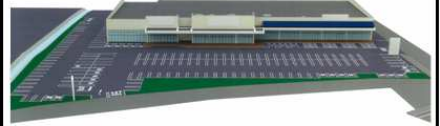
79.5

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®熊本《新築》【評価結果】

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)コブ春日店	階数	地上1階
建設地	熊本県熊本市西区春日7-1-1	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	100 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	4,015 時間/年
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年3月 予定	評価の実施日	2014年10月15日
敷地面積	8,675 m ²	作成者	加藤 彰
建築面積	3,493 m ²	確認日	2014年10月19日
延床面積	3,395 m ²	確認者	田井 啓文



■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築(簡易版)2010年版
(仮称)コープ春日店

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年版

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

スコアシート 実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						2.9
Q1 室内環境			0.40			2.8
1 音環境		2.6	0.15		-	2.6
1.1 騒音		3.0	0.40		-	
1 室内騒音レベル		3.0	1.00	3.0	-	
2 設備騒音対策		-	-	-	-	
1.2 遮音		3.0	0.40		-	
1 開口部遮音性能		3.0	1.00	3.0	-	
2 界壁遮音性能		3.0	-	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音		1.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境		2.7	0.35		-	2.7
2.1 室温制御		3.3	0.50		-	
1 室温		3.0	0.50	3.0	-	
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-	
3 外皮性能		3.0	0.17	3.0	-	
4 ゾーン別制御性	ゾーン別に冷房・暖房の選択が可能な空調システム	4.0	0.33	-	-	
5 温度・湿度制御		-	-	-	-	
6 個別制御		-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-	
8 監視システム		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		1.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境		3.0	0.25		-	3.0
3.1 昼光利用		3.0	0.50		-	
1 昼光率		3.0	-	3.0	-	
2 方位別開口		-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備		3.0	1.00	3.0	-	
3.2 グレア対策		-	-	-	-	
1 照明器具のグレア		-	-	-	-	
2 昼光制御		3.0	-	3.0	-	
3 映り込み対策		-	-	-	-	
3.3 照度		3.0	-	3.0	-	
3.4 照明制御		3.0	0.50	3.0	-	
4 空気質環境		3.0	0.25		-	3.0
4.1 発生源対策		3.0	0.50		-	
1 化学汚染物質		3.0	1.00	3.0	-	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	
4 レジオネラ対策		-	-	-	-	
4.2 換気		3.0	0.30		-	
1 換気量		3.0	0.50	3.0	-	
2 自然換気性能		3.0	-	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	-	
4 給気計画		-	-	-	-	
4.3 運用管理		3.0	0.20		-	
1 CO ₂ の監視		1.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御	全館 禁煙	5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30		-	3.4
1 機能性		3.6	0.40		-	3.6
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40		-	
1 広さ・収納性		3.0	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	3.0	-	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		3.6	0.30		-	
1 広さ感・景観	売場の天井高さ4m。	5.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース		3.0	0.33	-	-	
3 内装計画		3.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理		4.5	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計	内壁面は防汚性の高い仕上げを採用。	5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	建物の床面積に対し十分な休憩室(清掃員控室兼用)がある。	4.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.1	0.31		-	3.1
2.1 耐震・免震		3.0	0.48		-	
1 耐震性		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.33		-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-	

2.3 適切な更新			-	-	-	-
2.4 信頼性			3.6	0.19	-	-
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-
2	給排水・衛生設備	節水型器具の採用。	5.0	0.20	-	-
3	電気設備		3.0	0.20	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-
5	通信・情報設備	通信手段の多様化を図っている。	4.0	0.20	-	-
3 対応性・更新性			3.6	0.29	-	3.6
3.1 空間のゆとり			5.0	0.31	-	-
1	階高のゆとり	平均階高3.7m以上。	5.0	0.60	3.0	-
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率=0.077	5.0	0.40	3.0	-
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	-
3.3 設備の更新性			3.0	0.38	-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	2.7
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	3.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	2.9
1 建物の熱負荷抑制			2.0	0.30	-	2.0
2 自然エネルギー利用			4.0	0.20	-	4.0
2.1	自然エネルギーの直接利用	トップライトの採用。	4.0	0.50	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用	太陽光パネルの採用。	4.0	0.50	-	-
3 設備システムの高効率化			3.2	0.30	-	3.2
集合住宅以外の評価(ERRによる評価)		ERR=7.9%	3.0	-	-	-
集合住宅の評価			3.0	-	-	-
4 効率的運用			3.0	0.20	-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	3.2
1 水資源保護			3.0	0.15	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			3.2	0.63	-	3.2
2.1	材料使用量の削減	JIS規格品の採用。	4.0	0.07	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	エコマークを取得したPタイル	3.0	0.20	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上げ材が容易に分別可能。	4.0	0.24	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.22	-	3.3
3.1	有害物質を含まない材料の使用	売場内タイルの接着剤、化学物質を含まず。	4.0	0.32	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.68	-	-
1	消火剤		-	-	-	-
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-
3	冷媒		3.0	0.50	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	2.9
1 地球温暖化への配慮		条例で定められている現行の排出基準以下に抑えている。	3.2	0.33	-	3.2
2 地域環境への配慮			2.5	0.33	-	2.5
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.3	0.25	-	-
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-
3	交通負荷抑制	十分な台数の駐輪場・駐車場を確保	5.0	0.33	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.33	-	-
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-
1	騒音		3.0	0.33	-	-
2	振動		3.0	0.33	-	-
3	悪臭		3.0	0.33	-	-
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-
1	風害の抑制		-	-	-	-
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-
3	日照阻害の抑制		3.0	1.00	-	-
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光の性質に関する配慮	4.0	0.70	-	-
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。
地域に開放された物販店舗とする為、建物正面側はガラスを用い外部環境が内部までつながるように設計した。また、天井高さを4mとすることで解放的な空間になるように演出した。

Q1 室内環境

注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
多種の商品が陳列される為、誰にでも配置が分かるように内部サインを計画。また視力低下が著しい年配者の為に照度をやや高くし、細かな文字が読めるように配慮した。什器間の有効幅を1700mmと広くとり、車いす使用者でも無理なく移動できるように配慮した。

Q2 サービス性能

注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
一般的な物販店舗では多目的トイレ内で授乳スペースを設けるが、乳児同伴で長時間店内に滞在しても安心していられるように専用の授乳室を設けサービス性能の向上に努めた。

Q3 室外環境（敷地内）

注) 「Q3 室外環境（敷地内）」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
雨天時でも傘をささず店内に入って頂ける様に、車寄せを設置し、正面庇の出寸法を約4m取る事で雨天時動線に配慮した計画とした。正面玄関付近に車いす駐車場を設置し、バリアフリーに配慮した配置計画とした。

LR1 エネルギー

注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
自然エネルギーの交換利用として太陽光パネルを採用。省エネルギーに配慮した計画とした。

LR2 資源・マテリアル

注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
躯体と仕上材が容易に分別可能となるようにし、解体の際のリサイクルを促進した。

LR3 敷地外環境

注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
十分な台数の駐車場・駐輪場を確保し、周辺道路に渋滞や路上駐車などを発生させない様に配慮した計画とした。また、太陽光等の照返しを低減できる色彩の選定を行った。

その他

注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。

熊本市重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (仮称)コープ春日店

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v1.3)_kmt2011(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本市重点評価結果				総合評価点		77.0
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				85.2	0.40	34.08
Q1-2.1.3	外皮性能	3.0	0.08			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.07			
Q1-3.2.2	昼光制御	3.0	0.00			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	2.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	4.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	3.2	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	4.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	5.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				67.5	0.20	13.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				67.5	0.20	13.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	3.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				79.5	0.20	15.90
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.0	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数